

1 学校教育目標

人権尊重の精神に徹し、未来に生きる力を備え、知・徳・体・情操の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指す。

○明るくてつよい子 ○考えてやりぬく子 ◎やさしく助け合う子

2 めざす学校像、児童像、教師像

○学校像	・ 自他を尊重し笑顔あふれる学校 ・ 夢と創造性を伸ばす学校 ・ society5.0 未来に向かう学校
○児童像	・ 心豊かで、友達を大切にする児童 ・ 主体的・対話的に学ぶ児童 ・ 心身ともに健康な児童
○教師像	・ 安全、安心に配慮し、児童一人一人を大切にした教育を推進する教師 ・ 児童にとって、楽しい授業、主体的・対話的に学ぶ授業を創る教師 ・ 地域運営学校の一員として児童や保護者、地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題**（1） 本校の現状**

今年度、最大に注力すべきは、「コロナ」による児童の心身への影響を取り除き、保護者、地域と協力しながら安心・安全で楽しい学校生活を取り戻し、学力を保障することである。また、この先の見通しが立たない現在、具体策については、国、都、区の動向に準じ、関係機関と連携しながら、経営計画に加筆、具現化する。

児童数821名、26学級であり児童数は、区でもっとも多い。住宅地として人気のある土地柄で、この先数年における児童数の見込みは増加の傾向にある。児童数に対する施設の適正規模と教育活動の円滑な実施、校内外における児童の安全・安心の担保が優先事項である。保護者・地域の教育に対する意識や期待が高く、教育活動には大変協力的であるが、要望、苦情も多い。学校運営協議会（CS）が昨年度発足した。地域の核となるべくCSを目標に、保護者・地域からの信頼とつながりをより強固にするための舵取りをし、布石を打っていく。特色ある学校づくりを求心力とし、魅力あるCSを創っていく。

児童の授業に取り組む姿勢は意欲的であり、昨年度の杉並区教育調査・学校評価アンケートでは、「子どもは、学校の授業を通して、分かることやできることが増えている。」という設問に85%の保護者が肯定的な回答をしており、「学校の授業によって、分かることやできることが増えている。」という設問に80%に近い児童が肯定的な回答をしている。

各種の学力調査では、平均正答率は、どの調査も平均を数ポイントから十数ポイント上回り、「得点」としての学力は高い傾向にある。しかし、併せて実施される意識調査では、「内発的な学習意欲」「協働的な学び」「自己肯定感」が平均を数ポイント下回っている。得点は高いものの「主体的」「協働的」な学びとは言えず、「自信」「自己肯定感」のポイントが低い。これを重要な課題ととらえ、改善するために児童の「主体的・対話的で深い学び」と「豊かな心と健康な体」を教職員一丸となって創っていく。

また、代表委員会が中心となり「いじめ ZERO 宣言」を継続し、いじめ撲滅の活動を展開している。児童に自他を認める人権感覚を養い、互いのよさを受容できる教育を実施している。

体力面では、都を下回る主項目は、「ボール投げ（投てき力）」や「反復横跳び（敏捷性）」であった。改善のためクラスボールやバスケットボールを投げやすい物に替え、投げる運動に親しめるようにし、改善が見られてきた。また、体力向上に向け、体育集会を月1回定期的に行いなわとび旬間や持久走旬間を設定し運動の日常化に取り組んできた。

杉並区立高井戸中学校、杉並区立高井戸東小学校と小中一貫連携校と小中一貫教育を推進。近隣子供園、幼稚園、保育園と就学前教育との連携、接続を図っていく。

（2） 前年度の成果と課題

○児童の学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力の向上、学びに向かう力・人間性）の向上

各種学力調査の結果を見ると、総じて国や東京都、杉並区の平均値を大きく上回っている。全国学力・学習状況調査（第6学年）では、国語、算数において、東京都の平均正答率を11～12ポイント、全国の平均正答率を13.2～14.4ポイント上回る高い値であった。どちらの教科においても、全問正答者の割合が全国の2倍程度もあり、また、正答率が低い児童も少ない。

児童・生徒の学力向上を図るための調査（第5学年）では、国語、社会、算数、理科において、東京都の平均正答率を1.2～8.4ポイント上回っていた。特に、算数では6.2ポイント、理科では8.4ポイント上回っており、理数教科においてその傾向が強く見られた。

杉並区特定の課題に対する調査（第3～6学年）では、各学年の国語、算数、理科すべての調査項目で区の平均正答率を0.6～5.7ポイント上回っていた。特に理科では、第4学年が3.6ポイント、第5学年が4.2ポイント、第6学年が4.1ポイント上回っていて、こちらでも理数教科について力を付けていることが分かった。

しかし、学力調査と学力等に対する意識調査について、例年その結果に本校の如実な課題が見られる。得点としての学力は高いが自己肯定感が低く、また、内発的な学びになっていないという傾向が継続している。杉並区特定の課題に対する調査において、意識調査の経年変化を追ってみた。自己肯定感については、杉並区の平均値を下回る調査項目数が、平成29年度が9項目、平成30年度が4項目、令和元年度が8項目と、学力の高さと相反している。しかし、令和元年度は、6年生が3項目すべて下降していることを除けば、全体として緩やかに改善の方向へ進んでいる。また、主体的な学び、内発的な学習意欲についても、改善への取組の成果が表れてきている。しかし、個別の学び、協同の学びについては、まだまだ改善の様子が見られない。引き続き、ICTを活用し各教科で、また総合的な学習の時間を改編し、「個別」「協同」を探究的な学習で実現させる。

○児童の豊かな心と健康な体の育成

明るく、素直で期待に応えようと努力する児童が多い。しかし、意識調査に見られる「主体性」「自己肯定感や自信」「協働的な学習」の弱点が学校生活への不適応や人間関係のトラブルを引き起こす遠因となっている。特に高学年では、受験を学校生活より優先する風潮が少なからず見られる。友達や大人、学校を尊重しない児童の言動が人間関係や学校生活に乱れや荒れを引き起こし、指導に困窮を極める状況が継続している。教育活動全般を通して、児童同士が認め合う・学び合う・高め合うという課題解決の体験や学習を重視し、主体性と自己肯定感や自信を養う。人権尊重教育を基軸とし、道徳では「礼節」、全教科領域で「相手を尊重する態度」「挨拶」を重視した豊かな心と人と良好な関係を築く系統的な指導を計画、実施する。

いじめを認知した件数は、35件であった。早期発見・早期指導により31件が深刻ないじめまでに発展せずに解消した。年度をまたいで案件は4件を把握しているが、進級後も注意深く見守りを継続中である。今後も教職員、保護者、児童からの報告、相談等と関係機関からの情報を活用し、早期発見、早期対応を図る。また、SCや特別支援教室、関係機関と連携し、課題のある児童、家庭に寄り添う指導を強化し、児童が安心して登校できる環境をつくる。不登校児童への対応についても組織的、継続的に関わり、アプローチしていく。

体力面では、体力テストは、俊敏性、投擲力の力が数ポイント下回っている。運動の日常化を進め、運動量を確保するため、体育授業の改善と運動や遊びの奨励を行う。朝遊びボランティアを募り、安全管理を担保しながら朝遊びを実施している。区で一番の児童数となった本校では「空間・時間・人間」の確保が課題である。

○教員の授業力の向上

主幹教諭2名、主任教諭17名（経験年数10～40年）、教諭12名（うち3年次未満4名、産育代1名）2～30年代若手が全体の3分の2を占める。「主体的・対話的で深い学び」の授業を目指し、若手であっても校内外で研修を重ね授業力を伸ばす教員、日々の授業改善に向かいICT活用を推進する教員、学習内容を授業として実施することに手一杯で、本校の学校課題を直視し「一人一人に考えを創らせ協働的に学ばせる」授業づくりに至っていない教員もいる。新学習指導要領の実施や学校課題解決に向けてH30R1年度区の教育課題指定校を受け、ICTの活用を通して「主体的・対話的で深い学び」を目指した研究発表を行った。教職員支援機構のピクトグラムを活用した授業改善を前面に打ち出し、指導法の効果の検証を行った。教員のICT活用した授業力の向上、「主体的・対話的で深い学び」を創る意識改善につながった。課題としては、児童の情報教育モラル、ネットリテラシーが脆弱で早急の整備が必要である。また、総合的な学習の時間における「主体的・対話的で深い学び」指導法が確立せず、指導内容、計画の見直しと授業実践の蓄積が必要である。

4 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項 - 1		児童の学力向上（資質・能力の3本柱の育成）
今年度の成果目標		令和2年度区特定課題 平均正答率
全国学力学習状況調査において 平均正答率80%以上		国語65% 算数65%
今年度の目標実現に向けた取組		
項目	達成基準	具体的な方策
基礎的な知識・技能の確実な定着	① 全国学習状況調査平均正答率80%以上 ② 児童・生徒の学力向上を図るための調査、各教科知識・技能75%以上 ③ 杉並区特定の課題に対する調査各教科知識・技能65%以上	○R1, R2の学び残しの解消、 少人数算数指導における個の学習状況に応じた指導。タブレット個別学習。 学習支援教員の取り出し指導。 ○特別支援教室での自立活動支援。 ○学力調査、個人結果の家庭へのフィードバックによる家庭での補習
思考力・表現力・判断力等の育成	① 全国学習状況調査平均正答率80%以上 ② 児童・生徒の学力向上を図るための調査 各教科読み解く力75%以上 ③ 杉並区特定の課題に対する調査各教科活用50%以上	○杉並区教育課題指定校の成果に加え「学びの構造転換（個別化、協同化、探究化）」を創造する授業改善を実施する。総合や特設でも探究に汎用。 ○教員のICT活用型授業を徹底させると共に、児童のICT活用を推進する。全290台のタブレットを高学年で一人一台常態化。予備や高学年不使用時のPCで低・中でも活用。思考力・表現力・判断力の育成に努める。 ○慶應義塾大学理工学部・山口高平教授と連携しプログラミングとAIロボットを使用する授業を実施し、児童の興味・関心を高める。
学びに向かう力・人間性の醸成	① 学力調査意識調査の課題である「主体的」「協働的」な学びと「自信」「自己肯定感」のポイントを調査結果平均値との差を前年度より解消する。	○杉並区教育課題指定校の成果に加え「学びの構造転換（個別化、協同化、探究化）」を創造する授業改善を実施。 ○総合的な学習の時間の改編により、探究的な学習を促進する。 ○学級集団の質の向上を目指し、QU分析を実施し、課題に即応した手を打ち「自信」「自己肯定感」の醸成を図る。

重点的な取組事項 - 2		児童の豊かな心と健康な体の育成
今年度の成果目標		達成基準
① 「コロナ」休業明けの児童・教職員を含めた感染防止、児童の心身のケアに努める。 ② いじめの早期発見・早期解決、課題のある児童・家庭への支援 ③ 自らの健康と体力の向上を目指す児童の育成		① 観察や間隔を開けてのアンケートをし、不安を感じる子どもの数を減少させる。 ② 調査で把握したいじめを2月までに全て解決させ、卒業時まで見守る。 ③ 体力調査の結果において全学年で都平均以上にする。
今年度の目標実現に向けた取組		

項目	達成基準	具体的な方策
いじめ・暴力行為の根絶 課題のある児童・家庭への支援	①把握したいじめ等、児童の不安を年度内に全て解消する。 ②不登校児童を減少させる。	○校内いじめ対策委員会で事実把握、協議、全教職員で共通指導を行う。 ○生活指導夕会を週1行い、情報共有。 ○関係機関との連携強化による家庭への支援。寄り添う指導。
挨拶、返事、マナー、きまりを身につける	①特定課題調査の児童の生活・学習アンケートで「あいさつ」の項目の評価を85%以上にする。	○縦割り班で全児童が校門に立って挨拶を呼び掛けるあいさつ運動の実施。児童による自発的な活動を奨励。 ○管理職による校門での指導、学級指導、生活指導週目標の強化指導。 ○「浜小スタンダード」の指導の徹底。
体育の授業・体育朝会・休み時間の充実	①体力調査結果で全学年が都平均を上回る。 ②学年で決めた到達目標に児童の80%が達成。	○体育集会を月1回定例化。3月のなわとび月間、12月の持久走週間の実施。体育授業の改善。 ○朝の外遊びの奨励。 ○各種カードによる運動の奨励。

重点的な取組事項 - 3		教師の授業力の向上	
今年度の成果目標		達成基準	
① 教育調査の保護者の評価「学習指導」の昨年度の肯定率85%をさらに向上させる。		① 「子どもに学校の授業を通して分かることやできることが増えている」の項目の肯定率を90%以上にする。	
② 教育調査の保護者の評価「ICT 機器活用」の昨年度の肯定率86.9%を向上させる。		② 「ICT 機器（電子黒板やデジタル教科書）を活用した授業を行っている。」の肯定率を90%以上にする。	
今年度の目標実現に向けた取組			
項目		達成基準	
		具体的な方策	
校内研究、授業観察、研修を通じた授業改善		①教育調査の教員の評価「学び残しやつまずきを減らし、全ての児童・生徒の学力を向上させる授業を行っている」の昨年度の肯定率76%を向上させ80%以上にする。	
ICT 活用授業普及による授業改善		①教育調査の教員の評価「各教科等において ICT 機器（電子黒板やで来る教科書等）を活用した授業を行っている」の昨年度の肯定率89.7%を向上させる。 ② 情報教育モラル全体計画をカリキュラムマネジメントし実践を通して指導計画を作成する。 ③ 教科授業においてロボットを導入した授業を本年度2回以上実施する。	
若手教員の授業力向上		①若手教員自己申告において「授	

	業力」に関する目標を設定させ、最終評価を全員「B」以上にする。 ②若手教員自主研修会を年3回以上実施する。	を密にし、3年次までの教員の指導力の向上を図る。管理職の授業観察・指導を年6回以上行う。 ○教科の専門性の高い教員によるOJTの実施。
--	---	---